

■研究チーム⑤

子どもの貧困問題への福祉的対応

研究チームの研究課題名

子どもの貧困問題への福祉的対応

研究代表者およびチームリーダー

森田 明美（社会学部社会福祉学科・教授）

研究分担者名

研究員

中原 美恵（ライフデザイン学部生活支援学科・教授）

杉田 記代子（ライフデザイン学部健康スポーツ学科・教授）

兼井 京子（ライフデザイン学部生活支援学科・専任講師）

客員研究員

森田 明彦、清水 冬樹、小林 恵一、田谷 幸子、井上 仁、宮下 裕一、上田 美香

院生研究員

小椋 佑紀、朴 志允

研究計画の概要および当該年度の研究活動

本研究は、子どもの貧困化問題について問題を明らかにすると同時に、その福祉的な対応課題について明らかにすることを目的している。

2010 年度は、東京の自治体で取り組まれている子どもが抱える問題への特徴的な取り組みについて 2 回の報告を受け、自治施策の課題を考えた。

第 1 回目の 7 月 23 日には、子どもの虐待やいじめなど、子どもの命と人権を脅かす事件が後を絶たない中で、2005 年 12 月 1 日に公布・施行された目黒区子ども条例が、その後どのように施策が進められたか、特に子どもからの訴えを直接受け止める目黒区子どもの権利擁護委員制度「めぐろ はあと ネット」を中心に目黒区の子どもの政策課長橋本知明さんから報告を受けて既存の家庭児童相談室、教育相談室と権利擁護委員制度との関係、また市民相談であるチャイルドラインとこうした公的権利擁護委員制度の使われ方の違いなどについて議論をした。

第 2 回目の 10 月 2 日には、虐待・不登校・障がい・ひきこもりあるいは友だちやおとなとの関係に課題をかかえ、自分一人で解決できない子どもに対して、基礎自治体で取り組まれている、福祉現場と教育現場の相談・救済のしくみづくりについて、渋谷区での教育と福祉に関する子どもと子育て支援の協働と連携の取り組みの実際に関する報告を受け「基礎自治体における子ども相談の取り組みと

連携の課題」について議論をした。

報告者は以下の通りであった。

■池山世津子さん（渋谷区教育長）

■飯島昭さん（渋谷区教育センター相談員／元子ども家庭支援センター相談員）

池山さんは本学大学院の修了生であり、福祉分野と教育分野での行政責任者として制度を作り、運営していく立場として、障がいを持つ子どもたちをどのように早期に発見し、中でも家庭的な問題を抱える子どもたちについて、福祉領域の相談支援活動とどのように連携するかということが重要な政策課題であるということから、渋谷区では教育と福祉の連携事業を作り出してきたことを報告された。

飯島さんからは、中学生で障がいが発見された子どもの成育史を例にしながら、具体的な事例からみる教育と福祉の連携の価値について報告を受けた。飯島さんは児童相談所や家庭支援センターなど、福祉領域での相談支援活動を長く続けたのちに、教育相談センターで相談支援にあたられているため、福祉との連携をスムーズに展開できるということが推察される状況であった。こうしたつなぎ役、あるいはつなぎのためのシステムが行政内部につくられていくことが必要であることを考えさせられる報告であった。

子どもが持つ家庭問題は、子どもひとりの力での解決は困難である場合が多い。そうした時に、ソーシャルワーカーが子どもの状況に寄り添い、支援者として子どもを支えて行くことは、問題解決に大きな一歩となることが分かった。